

編集後記

2020年7月より、本学の大学教育イノベーションセンターおよび地域教育総合支援センターの業務再編が行われ、新しく教育開発推進機構が発足しました。教育開発推進機構は大学教育イノベーションセンター、アドミッションセンター、生涯教育センターの3センターで構成され、適切な入学者選抜から教育の質の維持・向上のための支援及び取り組みと地域教育や社会人学び直し等の支援を総合的に行う組織の体系化により、本学の教育理念に基づいた新たな知の創造と社会の調和的発展に貢献できる人材育成のための教育機能の向上を目的とするものです。この組織再編に伴い「大学教育イノベーションセンター紀要」は「教育開発推進機構紀要」へと名前を変更いたします。ただし、これまでの紀要を発展的に引き継ぐものとして、号数は続き番号とします。

さて、本年度は新型コロナウイルスが世界を危機的状況に陥らせ、大学教育は対面からオンラインへの移行を余儀なくされました。初めは対症療法的に進められてきたオンライン授業も長期化するにつれ、その限界とともに意義や有効性もまた発見されるようになってきました。

この第11号では、脅威の中で教育を継続させてきた大学の教職員の不断の努力が示されています。キャリア教育を含めた教養教育やアクティブラーニング型授業をいかにオンラインで対面型授業時と遜色なく、あるいはより効果的に行うか、コロナ禍において大学の教育運営状況はいかになされたかについての研究が寄せられました。寄稿された皆様にはあらためてお礼申し上げます。

今後、コロナ禍が過ぎ去っても、あるいは新型ウイルスにうまく対処できるようになったとしても、授業と大学運営においてオンラインという方法の有利な面については積極的に進められていくことでしょう。オンラインでの教育は時間と空間を越えてより広い教育機会を提供することを可能とします。あえて前向きに捉えるならば、脅威は既存の大学教育のあり方を見直す契機ともなりました。

本紀要が今後の本学および学外の大学教育とその改善に資するものとなれば幸いです。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3(2021)年3月

編集委員を代表して 中島 ゆり